

小学校『早期英語教育』推進事業

本県では、平成16年度から小学校「早期英語教育」推進事業を実施しており、早期の段階からの英語活動の在り方について、実践的な研究を推進しています。

学習指導要領の改訂
(平成10年12月)

総合的な学習の時間などにおいて国際理解に関する学習の一環として外国語会話を取り入れるなど、小学校段階にふさわしい体験的な学習を行うことが可能になった。

「英語が使える日本人」の育成のための行動計画
(平成15年3月)

我が国の英語教育を抜本的に改善する目的で策定され、小学校の英語活動の推進に向けてもいくつかの施策(小学校教員の英語研修、経験豊かなALTの配置促進、今後の小学校英語教育の在り方に関する研究等)が打ち出された。

小学校英語活動の推進(コミュニケーション能力の向上)

世界に光る奈良県づくり

(国際化に対応した環境づくり・奈良県を世界に発信)

小学校「早期英語教育」推進事業

小学校「早期英語教育」推進協議会
・研究モデル校への人材派遣の支援
・研究モデル校への指導・評価
・小学校「英語教育」指導指針の策定
・指導事例集の作成
・「小学校英語活動」研修会の実施

研究モデル校(平成17年度15校)
・英語活動についての研究と実践
・ネイティブ・スピーカー等への協力依頼
・校内研修の実施
・シラバス等の作成

小学校における英語活動の拡大

英語活動にかかわる
随時研究
(教育研究所)

小学校教員のための
英語活動セミナー
(教育研究所)

子どもたちの英語力の向上

ALTに対する英語活動にかかわる研修
(学校教育課)

中・高等学校英語教員の
英語集中研修講座
(教育研究所)

小学校英語活動 Q&A

Q1 小学校から英語活動を進めることに、どんな効果があるのでしょうか。

A: 小学校で総合的な学習の時間等で行う英会話学習のことを「英語活動」と呼んでいます。小学校の「英語活動」は、英語を積極的に使ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成やその後の英語学習の動機付けとなるという点において、効果があるとされています。また、英語活動実施校からは、「児童のコミュニケーションへの積極性が高まった」という報告もあります。

Q2 小学校の英語活動では、どのようなことに気を付けたいのですか。

A: まず、英語の音声やリズムに慣れ、英語に親しむために、歌やゲームを通して英語に触れることが大切です。ただ、これだけで終わるのではなく、児童が「英語でコミュニケーションしてみたい」と思うような意欲を引き出すために、児童が言いたいこと、したいことを扱ったコミュニケーション活動を取り入れることが必要です。単に文法を教えたり、無理な暗記をさせたりすることにより、英語嫌いをつくらないようにしましょう。

Q3 英語活動の指導は、誰がするのですか。

A: 児童の実態をよく知っている学級担任などが中心となって計画を立て、指導することが望ましいと思います。最初は、ALT(外国語指導助手)や地域のネイティブ・スピーカー等の手助けをすることから始めるとよいでしょう。

Q4 英語活動の教材を選ぶときに注意をすることはありますか。

A: 教材選びでは、次の2点に注意しましょう。
まず、児童の発達段階を考慮することです。一般に、低学年の児童はリズムやアクションを伴う活動を好み、単純な繰り返し練習や受動的な活動も苦にしません。しかし、高学年になると能動的な活動を好み、文字にも興味を示すようになります。また、互いに競い合うゲーム性のある活動にも積極的に取り組みます。
次に、児童の興味・関心に合った教材を選ぶことです。例えば、「あいさつ、食べ物、乗り物、職業、動物など」に関する教材が考えられます。

Q5 学級担任が英語に自信がないのですが、どうすればいいでしょうか。

A: まずは、児童と一緒に英語活動に参加しましょう。英語活動を楽しむうちに、聞く・話すことに少しずつ慣れてきます。教員の楽しむ姿が児童を更に楽しませ、英語に親しませていくことにもなります。教員自らの英語学習への努力も必要ですが、英語活動を通して自然に英語に親しみを覚えるようになれば、自信もついてくるのではないのでしょうか。

奈良県立教育研究所

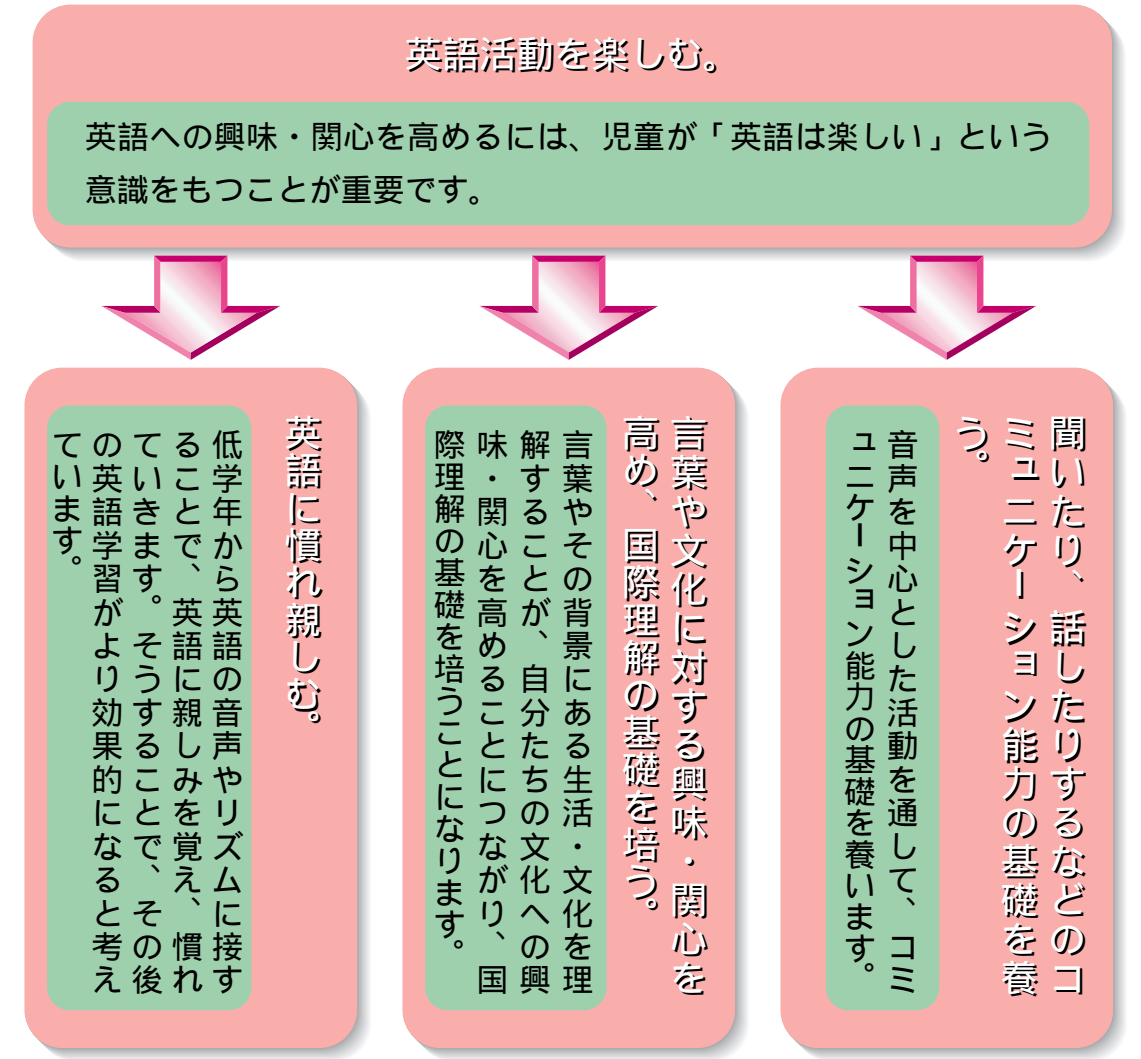
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1
TEL: 07443-3-8903 FAX: 07443-3-8909
(教科指導部 学習指導係)
Webページ: <http://www.nara-c.ed.jp/>
平成17年3月



本県では、情報技術革命(IT化)の進展や経済のグローバル化に伴い、地域レベルでの国際交流・協力の更なる展開を図るとともに、国際化に対応した環境づくりを進めています。このためには、国際性豊かな人づくりの推進と、県内の文化遺産や伝統などを、世界に発信することのできる力を身に付けた人材の育成が不可欠です。
国際的共通語となっている「英語」については、これまで中学校から教科としての学習がなされてきていますが、世界の人々とよりスムーズにコミュニケーションを図るための能力や積極的な態度などを養うため、小学校の早期の段階から英語活動に取り組みます。

小学校「英語教育」の目標

英語活動を楽しむを通して、英語に慣れ親しませ、言葉や文化に対する興味・関心を高め、国際理解の基礎を培うとともに、聞いたり、話したりするなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。





小学校「英語教育」各学年の目標等

目 標

英語活動を楽しむことを通して、英語に慣れ親しませ、言葉や文化に対する興味・関心を高め、国際理解の基礎を養うとともに、聞いたり、話したりするなどのコミュニケーション能力の基礎を培う。



小学校「早期英語教育」推進事業の対象学年

第1学年の目標及び内容と留意事項

- (1) 目標
 ア 英語活動を楽しむ。
 イ 初めて接する英語の音声に親しむ。
 ウ 外国の文化に触れる。

- (2) 内容
 ア 英語のリズムや音声に親しむ。
 イ あいさつやもの名前等を英語で聞いたり、まねたりする。
 ウ 外国の歌や遊び等を体験する。

- (3) 指導上の留意事項
 小学校において英語活動を初めて体験することに配慮し、「英語活動は楽しい」というイメージを与えるような活動を行う。
 ア 歌、ゲーム、動作等を用いた楽しい活動をさせる。
 イ 聞いた英語をまねて発音させる。
 ウ ものの名前等が自然に覚えられるような英語活動を繰り返し行う。

第2学年の目標及び内容と留意事項

- (1) 目標
 ア 英語活動を楽しむとともに、英語を使う楽しさを知る。
 イ 英語の音声やリズムに慣れる。
 ウ 外国の文化に触れる。

- (2) 内容
 ア 英語の音声・リズム・イントネーションに慣れる。
 イ 英語であいさつしたり、英語で尋ねられたことに答えたりして、人との触れ合いを楽しむ。
 ウ 外国の歌や遊び等を体験し、外国の生活や習慣に触れる。

- (3) 指導上の留意事項
 「英語活動は楽しい」ということに加え、「人と触れ合うことが楽しい」と思わせるような活動を行う。
 ア 歌、ゲーム、遊び等を通して英語の音声に親しませる。
 イ 外国の文化や習慣に触れるような活動をする。
 ウ グループ活動やペア活動も取り入れる。

第3学年の目標及び内容と留意事項

- (1) 目標
 ア 英語の音声等の特徴に慣れる。
 イ 英語を用いて、積極的にクラスの友だちとコミュニケーションをしようとする。
 ウ 日本の文化と外国の文化の違いに関心をもつ。

- (2) 内容
 ア 英語の音声・リズム・イントネーション等に注意をして、聞いたり、話したりする。
 イ 身近で簡単な会話や話を聞いて理解する。
 ウ 学習した簡単な表現を使って質問したり、答えたりする。
 エ 日本と外国の生活や習慣、文化の違いに気づき、興味・関心をもつ。

- (3) 指導上の留意事項
 「コミュニケーションは楽しい」と思わせるような英語活動を行う。
 ア 歌、ゲーム、ビデオ、劇等を用いて楽しい活動をさせる。
 イ 子どもたちの生活に密着した話題を扱う。
 ウ いろいろな場面を設定して、自分の知っている英語を数多く使わせる。
 エ 外国の文化や習慣に関心をもたせ、日本との違いに気付かせる。



第4学年の目標及び内容と留意事項

- (1) 目標
 ア 英語を聞いたり話したりすることに慣れる。
 イ 英語を用いて、クラスの友だちとコミュニケーションをする。
 ウ 日本の文化と外国の文化の違いを知る。

- (2) 内容
 ア 日常生活によくある場面での簡単な会話を聞いたり、簡単な表現を使って尋ねたり答えたりする。
 イ 簡単な話を聞いて、大筋を理解する。
 ウ クラスの友だちや外国の人と積極的にコミュニケーションをする。
 エ 日本と外国の生活や習慣、文化の違いが分かる。

- (3) 指導上の留意事項
 「積極的にコミュニケーションをしたい」と感じさせるような英語活動を行う。
 ア 歌、ゲーム、ビデオ、劇等の内容に興味をもたせて活動させる。
 イ スキットやロールプレイを用いてコミュニケーション活動をさせる。
 ウ 身近にあるような場面を設定して、その場に適した英語を使用する活動を行う。
 エ 外国の文化や習慣に関心をもたせ、日本との違いを理解させる。

第5学年の目標及び内容と留意事項

- (1) 目標
 ア 積極的に英語を聞いたり、話したりする。
 イ 聞くことや話すことに加えて、英語の文字に触れる。
 ウ 日本の文化と外国の文化を比較することにより、多様な価値観や見方があることに気付く。

- (2) 内容
 ア 日常生活によくある場面での簡単な会話を聞いて、尋ねたり答えたりする。
 イ 簡単な話を聞いて、理解する。
 ウ アルファベット等を讀んだり、書いたりする。
 エ 外国の文化の多様性に気付くとともに、日本の文化との違いを意識する。

- (3) 指導上の留意事項
 聞くこと・話すことに加え、読むこと・書くことにも楽しさがあることに気付かせるような英語活動を行う。
 ア 知っている単語や表現を使って、日常生活によくある場面での会話を用いた英語活動を展開する。
 イ 身近にあるアルファベットを取り入れ、ローマ字学習と関連させたりして、文字に興味をもたせるような教材を工夫する。
 ウ 日本の文化と外国の文化との違いについて調べさせたり、発表させたりする。
 エ 間違ふことを恐れずに、英語を使えるような雰囲気づくりに心がける。

第6学年の目標及び内容と留意事項

- (1) 目標
 ア 英語の文字等も使用して、英語を総合的に活用し、積極的にコミュニケーションを図る。
 イ 英語を使ってクラスで簡単な発表やスピーチをする。
 ウ 国々の文化の多様性に気づき、互いに尊重し合う心をもつ。

- (2) 内容
 ア 日常生活のいろいろな場面での会話ややりとりを聞いたり、応答したりする。
 イ 自分のことや身の回りのことについて、知っている語や文を使って発表する。
 ウ 既習の単語や簡単な文章等を写したり、伝えたいことを書いたりする。
 エ 外国の事情やグローバルな課題等に触れ、自分とのかかわりに気付く。

- (3) 指導上の留意事項
 発達段階を考え、児童一人一人が自ら積極的に取り組めるような英語活動を行う。
 ア 他の教科で学習した内容等を取り入れた英語活動を通して、児童の知的な興味・関心を高める。
 イ 文字を見せながら、会話や話を聞かせ、文字と音声を一致させる。
 ウ 自分や身の回りのことについて発表することにより、達成感や満足感をもたせる。
 エ 外国の事情やグローバルな課題について、自分のこととして考えられるような題材を工夫する。

英語活動を通して育てたい子ども像

- 1 英語に慣れ親しみ、言語学習に積極的に取り組もうとする態度や意欲をもった子ども。
- 2 日本の文化と外国の文化の違いに関心をもち、理解を深めることを通して、互いに尊重し合う子ども。
- 3 世界の人々とコミュニケーションをする能力をもった子ども。



中学校英語教育への接続

小学校

小学校の英語活動を通して、子どもたちは、英語の音声に慣れ親しみ、積極的に外国の人とコミュニケーションを図ろうとする意欲と、「英語は楽しい」という意識をもって中学校へ進学する。

中学校

中学校では、「聞くこと・話すこと」の能力を更に伸ばすとともに、「読むこと・書くこと」における能力の向上を目指す。

留意点

小学校、中学校の教員が、互いに授業を参観するなど、小学校の学習事項が効果的に中学校へ受け継がれていくように連携を図ることが必要である。

英 語 に 親 し む

英 語 に 慣 れ る

積 極 的 に コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 図 る っ と す る

活動がうまくできたときはほめ、英語を使うことに自信をもたせる。

ある学年で実施した言語材料を、上の学年でもスパイラル的に繰り返し、楽しく活動しながら学習ができるようにすることが重要である。